

5月に入り新緑の美しい季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

鴻巣病院では、統合失調症家族教室を定期的に開催していますが、感染症予防の観点から2021年前期の開催を見送る運びとなりました。

そこで家族教室でお話しする内容をおたよりの形でお伝えしていくことになりました。

今回は統合失調症についてお話をしていきます。



●統合失調症ってどんな病気？

統合失調症とは、脳の神経の働きのバランスが崩れ、こころや身体に症状があらわれる病気です。私たちの脳では普段から膨大な情報がやりとりされていますが、その情報を伝達する役割を受け持っているものに「神経伝達物質」があります。神経伝達物質には、様々な種類があります。中には興奮や緊張を高めるものもあり、過剰に分泌されると脳が活動しすぎの状態になり、注意集中を維持できなくなったり、考えがまとまらずに現実にそぐわない考えが浮かんできたりするようになるのです。

原因は、いまだに解明されていません。大切な家族が病気になると、自分が悪かったのではないかと自分を責めたり、後悔したりするのは人情でしょう。しかし、遺伝や育て方といった何か一つが、病気の明らかな原因になる訳ではないという事は知っておいて頂ければと思うのです。

●どんな症状があるの？

神経伝達物質のやりとりの不具合から生じる統合失調症の症状は、普段ないはずのものがあらわれる陽性症状と、普段あるはずのものがなくなる陰性症状とに整理することができます。陽性症状としては、幻覚や妄想といったものがあげられます。一方で、陰性症状としては、意欲が減退したり感情の起伏が弱くなったりといったことがあげられます。

症状があらわれると、どうしても病気や症状に目がひきつけられがちですが、一度それ以外の健康な部分やできる事にも目を向ける時間をつくってみることも大切です。

●どんな治療があるの？

症状を改善するためには、脳の神経の働きを整えるための薬を飲むことが効果的です。薬の効果は飲んでいる間続いていくため、定期的に継続して飲み続ける事で、再発の可能性を減らしていく事ができるのです。その他にも、リハビリテーションなどを組み合わせて治療をすすめていきます。

●これからどうしたらいいの？

まずは正しい情報を知ることが大切です。正しい知識が身につくと、正しく悩み、正しく対応する事ができるようになります。統合失調症は、世界的に見ても、およそ100人に1人がかかる病気と言われ決してまれな病気ではありません。一人で抱え込まずに専門家や家族同士の集まりと繋がりを持ち、正しい情報に触れる機会をぜひ増やしてみてください。

症状には個人差があります。ご質問などあれば、病棟スタッフ、もしくはデイケアまでお気軽にお声掛け下さい。次回は「薬について」を予定しています。